Fundraising Cafe ファンドレイジングカフェ

限定オープン

2018年
3月4日(日曜日)
10:30-14:00

国領駅すぐ 西友の上
調布市市民プラザあくろす 市民活動規模センター
(調布市国領町2-5-15 コクティー2階)

ふだんの暮らしと私たちの「社会」ってどう関係があるの？
忙しい毎日でもできる、自分らしい「社会への投資のカタチ」を考えるカフェです。

MINI-SEMINAR

11:20～11:40
忙しくてもできる
ファンドレイジング

11:50～12:10
社会への投資！
ファンドレイジング

ドリンクにはクッキーなど
プチスイーツがつきます

MENU(無料)
フェアトレード・コーヒー
フェアトレード・ダージリンティー
オーガニックほうじ茶

カフェは予約不要で
どなたでも
参加できます！

店長 兼 講師
枝見太郎(えだみたろう)

マザー・テレサのボランティアコーディネーターとして活躍。
現在は「市民が主役のまちづくり」の視点からファンドレイジングやNPO活動を全国で推進。曼荼羅地方創生アドバイザーも務める。田原総一朗氏とも共演するなど講演に引っ張りだこのソーシャルビジネスのフロントランナー。

仕様済み切手が寄付に
変わるってほんと？

カフェではコーヒーなど
楽しみながら切手の整理をして、
寄付の仕組みを学ぶこともできます。
使用済み切手もぜひお持ちください。

詳しくはfacebookで！

問い合わせ
調布市市民プラザあくろす 市民活動支援センター
TEL 042-443-1220 / FAX 042-443-1221
(開館時間：平日・土日祝日 8:30-22:00)

◆団体名
調布さくらウインドオーケストラ

◆助成内容
老若男女問わずブランクがあっても音楽を楽しめる地域づくりを目的とした
「第1回定期演奏会」の会場費、附帯設備費、広告宣伝費、楽器運搬費

◆助成金額
70,000円

◆プログラム概要(報告)
調布さくらウインドオーケストラ 第1回定期演奏会
2018年1月27日(土)16:30～18:30(アンコール含む)
調布市グリーンホール 大ホール
後援：調布市教育委員会・調布市社会福祉協議会
プログラム
第一部 アルセナール／カンタベリーコラール／聖エルモの火～ウインドオーケストラのために
第二部 さくらスペシャルメドレー／組曲「宇宙戦艦ヤマト」
第三部 サウンド・オブ・ミュージック／ミス・サイゴン

◆来場者数
250名

◆団員募集しています
「調布さくらウインドオーケストラでは、一緒に活動する仲間を募集しています！楽器を持っていてやる気がある方なら大歓迎です！」詳しくは市民活動支援センターまで。

お揃いのTシャツ、さくら色です

ソプラノ歌手とのコラボレーション

◆団体名
書Salon(しょサロン)

◆助成内容
おもてなし書道体験や書道パフォーマンスを通した文化交流・国際人材育成を
目的に、調布市民や外国人居住者、また外国人観光客を調布に呼び込む為の
ホームページ製作費

◆助成金額
50,000円

◆団体紹介
2011年名古屋で外国人と日本人の交流を目的として、日本語でも英語でも共に学べる書道教室をスタート。
現在は、入間地域センターにて(公財)日本習字の段級位を取得しながら各々の個性やグローバルな感性を養いながら毎週楽しく取り組んでいる。
NHK番組「2020 TOKYO みんなの応援計画」からの取材を機に、オリンピックに向け、調布を中心に国内外で書道のワークショップや書道パフォーマンスをより積極的に展開し、国際交流活動をおこなっている。

活削の様子

◆活動実績
2011年～2012年　名古屋にてインターナショナル書道教室としてチャリティーレッスンを開講。
受講料として集まった10万円を東日本大震災復興支援金として寄付。
2012年 2月　名古屋矧真寺にて作品展開催
2014年～2015年　大阪にて託児付きインターナショナル書道ワークショップを開催
2016年 7月　Tsunaguひろば　書道ワークショップ出店(調布市)
2017年 1月 新年 英語で卓球＆書道ワークショップイベント主催(調布市)

書き初めの練習

ちょうふチャリティーウォークでのパフォーマンス

この看板が目印

◆センター応援コメント
「書道を通して世界とのかけるを」をコンセプトに入間地域福祉センターで活動している「書salon」。
海外からの留学生を受け入れており、書道を教わりながら参加者同士で国際交流ができることが特徴の一つです。
オリンピックに向け、調布に来ていただいた外国人観光客の方におもてなし書道体験として、様々な体験型イベントやワークショップも企画しています。えんがわファンドの助成対象であるホームページは現在リニューアル中で、調布に来てもらうことのできた仕組みの第一歩として、活動風景の映像や写真を積極的にアップすることや書道の魅力を国内外にダイレクトに発信するための工夫を凝らすなど、団体の活動に興味をもってもらえるような内容、デザインを考案しています。またちょうふチャリティーウォークでは、書道パフォーマンスを活かした他団体とのコラボが実現し、こどもたちが演奏にあわせて絵本の物語を歌いながら、それぞれが感じとった言葉を書道で表現していました。代表の館さんは、これからもイベントの開催や他団体とのコラボレーションの可能性を模索するために、地域とつながっていきたいとおっしゃっています。活動を通して調布のまちが活性化していくことが、日本と海外をつなぐ架け橋となるのではないでしょうか。

えんがわファンド助成団体レポート その5

調布のボランティア・市民活動を"資金"と"つながり"で助成するプログラム『えんがわファンド』。助成団体レポート第五弾は、オーケストラと書道。それぞれが市民活動にどう結びついていくのか、ほんの一部ですがご紹介します。合わせてご案内するのは、えんがわフェスタ2018と同時開催のファンドレイジングカフェ。自分らしい"社会への投資"とは？プチスイーツをご用意してお待ちしています。